



① たべものだいすき

ムジナもん

「ぼく、ムジナもん。 お菓子大好き！
ジュース大好き！
野菜とかご飯は・・・あんまり好きじゃないんだ。」

ナレーター

ムジナもんは、いつもお母さん（ムジナイが）に
こう言われています。

お母さん
（ムジナイが）

（優しく諭す^{ささ}ように）
「ムジナもん、野菜もご飯もちゃんと食べなさい。
お菓子ばかりじゃ、大きくなれませんかよ。」

ナレーター

ムジナもんはいがまんちゃんと
一緒に考えてみました。

ムジナもん

「お菓子やジュースでもお腹いっぱいになるのに、
なんでかなあ？」

ムジナもん

（思いついたように）
「そうだ！何でも知っているザリガニ博士に
教えてもらおう！」



ナレーター

②

ザリガニ博士は田んぼで暮らしています。
とっても長生きなので、いろんなことを知っているのです。

ムジナもん

「ザリガニ博士、こんにちは。
今日は教えてほしいことがあって来ました。」

ザリガニ博士

「おやおや、ムジナもんといがまんちゃん、
こんにちは。教えてほしいことってなんだい？」

ムジナもん

「はい、どうして野菜やご飯をちゃんと
食べなきゃいけないんですか？」



ナレーター

③
すると、ザリガニ博士が教えてくれました。

ザリガニ博士

「いい質問じゃの。

野菜やお米はな

お日さまの光をあびて、大切に大切に
育てられるのじゃ。

そうすると、みんなの体を強くする、

栄養がたくさん詰まった

野菜やお米ができるのじゃ。

好き嫌いばかりしていると、

元気が出なかったり、

風邪をひきやすくなってしまふんじゃ。」

ムジナもん

(おどろいたように)

「そっか、僕の体は食べ物から栄養をもらって、
大きくなっていくんだね。」

だから、ちゃんと食べなきゃだめなんだね。」

(半分抜く)



いがまんちゃん

ザリガニ博士

ナレーター

いたっち

④

(ふしぎそうに)

「でも野菜やお米ってどうやってできるのですか？」

「ここ羽生というところは、野菜やお米を作るのにとってもいいところなんじゃ。土地は豊かで、空気がうまい。どうじゃ、わしの畑と一緒に野菜を作ってみるか？」

(全部抜く)

ムジナもんといがまんちゃんは、フナどんといたっちと一緒に、ザリガニ博士の畑の土を耕したり、肥料をやったり、野菜の苗を植えたりしました。いたっちは汗をたくさんかきながら言いました。

「よいしょ、よいしょ、野菜ができるまでは大変だなあ。でも食べるのがとっても楽しみ！」

(2 / 3 抜く)



⑤

ナレーター

フナどんが口にいっぱい水を含ませて、

フナどん

(口に水を含んでいるように)

「水やりならおいらにまかせて。それっ、
ピュー、ピュー」

ナレーター

すると・・・ピヨーン、ピヨーン
誰かが飛び跳ねながらこっちに来ましたよ。
イナゴージャスです。

(全部抜く)

イナゴージャス

「これはこれは、皆さんお揃いで。
野菜づくりかい？感心ですなあ。」

ムジナもん

「はい。そうです。
みんなで一緒に作っているんです。」

イナゴージャス

「そうかいそうかい。
きつとおいしい野菜ができる」^{※①}

※①…できるでしょう



⑥

いがまんちゃん

「イナゴージャスさんの田んぼはお米ができるんですか？」

イナゴージャス

「^{※①}そうだべ。^{※②}おいしいお米ができるんだべ。」

私はお米が大好きだかんね。^{※③}

朝、ごはんを食べないと、

高く、遠くへ飛ぶことができないんさ。^{※④}

いがまんちゃん

「そっか、おなかペコペコだと、力が出ないもんね。」

ムジナもん

(感心したように)

「だから朝ごはんを食べるんだ。」

よろし、これからは朝ごはんをいっぱい食べるぞ〜。」

ナレーター

(少し間を置く)

秋になって、ムジナもんたちが育てた野菜ができる季節になりました。

野菜たちは、どうなったかな？

※① ∴ そうだよ

※② ∴ できるよ

※③ ∴ だからね

※④ ∴ できないんだ



⑦

ナレーター

畑には大きなサツマイモができていました！
さあ、みんなで力を合わせて引っ張ります。

ムジナもん

いがまんちゃん

「よいしょ。よいしょ。」

いたっち

いたっち

「うーん、なかなかぬけないぞ。」

いがまんちゃん

「もう一回、せーの。」

ムジナもん

いがまんちゃん

「よいしょ、よいしょ。」

いたっち

ムジナもん

「いたっち、もう一息だ！」

ナレーター

いたっちはもっともっと引っ張りました。

いたっち

「よいしょ、よいしょ。それー」

(勢いよく一気に全部抜く)



⑧

ナレーター

(お芋が抜けたように)
ボコボコッ!
サツマイモがたくさん抜けました!
いがまんちゃんは驚いて

いがまんちゃん

「わあい抜けたよ、なんて大きなおイモ!」

ナレーター

いたっちもとてもうれしそうです。

いたっち

「すごい!おいしそう!」

ナレーター

隣の田んぼにはイナゴージャスがいます。

イナゴージャス

「やあ、チミ達^{※①}、稲刈りを手伝ってちょーだいな。」^{※②}

ムジナもん

「やろうやろう!みんなで手伝おう。」

※①…きみたち
※②…ちょうだい



ナレーター

⑨

みんなはイナゴージャスの田んぼで、稲刈りの手伝いをしました。

カマでザック、ザック。ザック、ザック。

稲の皮をむくと、ピッカピカのお米がでてきました。

フナどん

「わあい、とれたてのお米でおいしいおにぎりが食べたいな！」

ムジナもん

「さっきのおイモも、おいしく食べたいなあ。」

いがまんちゃん

(思いついたように)
「お料理の上手なしらすぎ婦人に相談してみよ^{＊①}っか。」

＊①…みようか



⑩

ナレーター

みんなでおイモとお米を持って
しらすぎ婦人に相談に行くと・・・

しらすぎ婦人

「まあ、とても立派なおイモとお米※①ザマス。
みんなで焼き芋とおにぎりを作る※②ザマス。」

ナレーター

お芋を焼いて、パチパチパチ・・・。
お米を炊きます。ブクブクブク・・・。

フナどん

「そろそろおイモ焼けたかな？」

しらすぎ婦人

「もう焼けた※③ザマス。
いい匂いがする※④ザマス。」

- ※① ……です
- ※② ……作ります
- ※③ ……です
- ※④ ……します



しらすぎ婦人

いたっち

フナどん

ムジナもん

ナレーター

ムジナもん

いたっち

いがまんちゃん

ナレーター

⑪

「さあみんな、ご飯も炊けたザマス。」^{※①}

「おいしそう！」

炊き立てのお米はキラキラ輝いて、
湯気がホカホカ立っています。

「みんなでおにぎりを握ろう！」

「アチチ！アチチ！」

「鮭を入れて、^{※②}ニギニギ、おかかを入れて、^{※③}ニギニギ」

とても上手に握ることができました。

※①…炊けましたよ

※②、③…握ろう



⑫

しらさぎ婦人

「さあ、みんなで^{※①}いただくザマス。」

全員

「いただきます！」

ムジナもん

「パクパク…モグモグ…ごっくん。」

いがまんちゃん

「おいしい〜！」

イナゴージャス

「^{※②}そうだべ、^{※③}おいらのお米はうまかんべ！」

いたっち

「みんなで食べると楽しいね！」

フナどん

「おかわり〜！」

ナレーター

ムジナもんもいがまんちゃんもおいしくてニコニコ、いたっちもフナどんもうれしくてニコニコ。みくんな笑顔。みくんな元気！羽生の恵みでおなかいっぱい。みんな、明日からもまた元気に遊べるね。

全員

「ごちそうさまでした〜」

(おしまい)

※①…いただきますしよう

※②…そうでしょう

※③…おいしいでしょう